

時をさかのぼれたら

愛宕無

もしも、時をさかのぼれたらあなたは何をやり直すだろうか。

期末考査で赤点を取ったとき。大学受験に失敗したとき。母親に怒られたとき。

そんなちっぽけなものでぼくはやり直すつもりはない。

ぼくはすべてをやり直す。

それはぼくがこの世界に生を受ける直前から……いや違う。

第二次世界大戦が終わって、日本人が負け犬になる前から……それも違う。

キリストがはりつけになって亡くなった日から……いやいやそれも違う。

ではいつからか。

それは地球が誕生した時から。

そう、すべて。この地球が誕生したその瞬間からすべてをやり直す。

ぼくが神となって……

地球の誕生――

ビックバン。天地創造。

海と陸が七対三で存在する世界。

それを逆転させる。

季節は……そのままがいい。春夏秋冬、どの季節にもマイナス面はあるが、それに勝るすばらしさがあるのだから。

そして山は少なく、それも高い山は極力少なく。火山なんてものは作らない。地球の奥深く、固い硬い岩盤で覆ってマグマを逃がさない。

平野を増やす。緑豊かで、草が一面に生い茂る。花は存在しない。必要がないから。しかし、木は存在させる。森という大きな集団を形成して。そして、当然、二酸化炭素を吸収して、酸素を放出する。生物が存在し続けるために。

生物が、存在し続けるために川を作る。川は小さいものを根っここのように無数に通す。必ず近くに水があるように。

天気は晴れ、晴れ、晴れ、雨を繰り返す。晴れは地を豊かにし、雨は地を潤す。

人間――

現代でもなく、江戸でもなく、鎌倉でもなく、平安でもない。弥生時代。どちらかとい
うと縄文寄りの弥生時代。

稲作が日本に伝わったころ。まだ、身分が確定してないころがいい。身分なんてないほ
うが……みんな平等なほうがいい。

それに、日本人の主食である米は必要だろう。

米だけではない。野菜、芋、果実なんかも育ててみればいい。

おいしいのだから。

人間以外の現有生物――

食物連鎖を基本とする。

草をバッタが食べ、バッタをカマキリが食べる。そのカマキリを小鳥が食べて、小鳥を
鷹が食べる。その鷹を人間が捕獲し、食べる。養分を吸収したカスを糞として出す、また
は人間が亡くなったあと、糞や肉体を菌や原生生物が分解する。それが、生物界の理想だ
と、ぼくは断言する。

人間に都合のいい生物だけがいるべきではない。

蛇のように毒を持つ生物がいたっていい。ライオンのように猛獣がいたっていい。

人間に都合の悪い生物を潰していったから今の世界があるのではないか。

水の中にも生物はある。海の中には当然、小さな川の中にもいる。

つまり、絶滅した種も含めて必要のない生物ない。

ただ、海と陸の割合が変わってしまっているので、そこだけは調整が必要だ。

恐竜――

広くなった陸地。そこに、絶滅させないで恐竜を存在させる。

そのために、マグマを封印するのだ。

人が往来する街道。その隣を『ドスンドスン』と音を立てて過ぎる。

男のロマンではなからうか。

……完全な趣味です。

ぼく――

ぼくは神として創った世界で何をすべきだろうか。

空の遙か上。そこから、自分の創った世界を見守るべきだろうか。

それとも、地上。地上で生きとし生けるものと共に生活するべきだろうか。

当然、地上で暮らす。

ぼくの神としての仕事は、世界を創造すること。けっして、創造した世界を支配したい
わけではない。

そして、ぼくが神だとは公表しない。一般人として、そこで生活するのだ。冬の終わりに田んぼを耕し、春に苗を植え、秋に黄金色に輝く稲を刈る。

その空いた時間に狩り、採集を楽しむ。

地を駆け動物を追い、水をかき分け魚を捕える。森に入って木の実を集める。

物々交換なんかもいいかな。

狩ってきた肉と、育てた米を物々交換。人と人とのつながりがあり、いいと思う。

現代の社会はそういうつながりが薄れてきている。これは重要なことなのに。

ぼくは神として人とともにあるべきなのだ。そして、肌でその生活を感じる必要がある。

そして、修正できること、修正すべきことは、直していくべきなのだ。

この、ぼくの世界に生きとし生けるものすべてが幸福になれるように……

「聞いているの？」

その言葉で現実に戻される。

「ちゃんと聞いている」

ぼくはムツとしながら返事した。

——そう、さっきまではぼくの妄想。この現実から逃げだすための妄想。

「はあ……あんたは人の話を聞かないから、受験に失敗するのよ」

母は、嘆息する。

「うっさいな。それは、関係ないだろ」

「あんたはそうやって……」

ぼくは、今、母に説教されている。

成績があまり良くないぼくは、第一志望だった大学に落ちただけでなく、第三志望の大学にさえも落ちてしまった。

そして、三月末の現在、ぼくには進学する先がない。

いい大学に入学しないとなんて社会ぶち壊したい。みんな、平等。そんな社会が理想……なんて妄言だとぼくも思う。

現実世界では、格差社会が存在するのだから……

こうなるんだったら、きちんと勉強していればよかった。そう思ってもあとの祭りだ。

もし時をさかのぼれるなら、神になって天地創造なんてできなくてもいいから、受験勉強をしつかりとやり直す。